



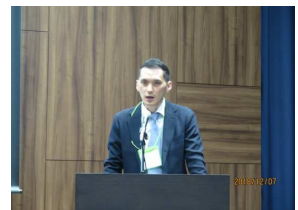










# 日本海洋政策学会 年次大会講演者・発表者

注：役職名は当時

回	第 10 回			
開催月日	2018/12/7			
開催場所	笹川平和財団ビル(国際会議場)			
統一テーマ	新たな海洋立国への挑戦 —科学・技術・海洋政策の統合—			
基調講演	第3期海洋基本計画の技術内容とその実現策	大和	海上・港湾・航空技術研究所 理事長	
来賓挨拶	笹川 陽平 日本財団会長			
	重田 雅史 内閣府総合海洋政策推進事務局長			
研究発表	外国船舶に対する寄港管轄権の法的限界 — 外航海運における地域規制の問題を中心に—	森本	日本海事センター主任研究員	
	SANCHI 号衝突事故が提起した東シナ海管理に関する課題	下山	海上保安大学校准教授	
	IUU対策としてのFAO「旗国責任遵守のための自主的指針」の法政策的意義	吉原	姫路獨協大学准教授	
	次世代海洋資源調査技術開発に対する民間企業の取り組み	河合	次世代海洋資源調査技術研究組合理事長	

	海底資源探査に係る環境影響評価制度の内外比較	青木	横浜国立大学特任講師	
	海洋プラスチックごみの管理実態と問題構造	塩入	笹川平和財団主任研究員	
	水中文化遺産に対する法制度的及び技術的検討	中田	東京海洋大学准教授	
パネルディスカッション	テーマ 「第3期海洋基本計画の着実な実施」			
	モデレータ	來生	放送大学学長	
	パネリスト	上田	日本風力発電協会国際広報部長	
		加藤	日本水路協会理事	
		佐藤	東京大学大学院教授	
		深澤	海洋研究開発機構 研究審議役	
ポスターセッション	①境界画定紛争の解決における平和パイプラインとエネルギー通過計画の意義 大河内美香(東京海洋大学准教授)			
	②港湾海象観測網による沿岸防災や海況把握への貢献		永井紀彦((株)エコ顧問)	
	③テキストマイニング手法による海洋政策の構造化の試み		中原颯太(大阪府立大学生)	
	④島しょの高校生の海洋についての意識及び行動について		葉勝吾(東京都立八丈高校校長)	
	⑤ネットワーク・ガバナンスによる沿岸域多段階管理の可能性		日高健(近畿大学教授)	
				